

# 令和2年司法試験の採点結果を受けて

## 1 今年の合格者数、合格率等

令和3年1月20日、法務省大臣官房人事課より、令和2年司法試験の採点結果が発表されました。

令和2年司法試験の合格者数は1,450人（令和元年は1,502人、平成30年は1,525人）となりました。受験者数は3,703人（令和元年は4,466人、平成30年は5,238人）、短答式試験の合格に必要な成績を得た者の数は2,793人（令和元年は3,287人、平成30年は3,669人）でした。合格率は、受験者数ベースでみると約39.1%（令和元年は約33.6%、平成30年は約29.1%）、短答式試験合格者数ベースでみると約51.9%（令和元年は約45.7%、平成30年は約41.6%）となりました。直近3年間では、一番高い合格率となっています。

2016年以降、合格者数は約1,500人ベースを維持していますが、受験者数は減少の一途をたどっています。昨年までで受験者数は毎年約12~14%ずつ減少していましたが、今年の受験者数は昨年と比べて763人減少し、その減少率は約17%まで上昇しています。コロナ禍での受験を回避しようという受験生が一定数存在したものと考えられるため、減少率の振れ幅がより大きいものになったと考えられますが、いずれにせよ、受験者数の減少傾向には歯止めがかかっていない状態です。

このような傾向が続く中でも、今年の合格者数は、1,500人を割りはしたものの、概ね約1,500人ベースを維持する形となりました。これは、2015年6月に法曹養成制度改革推進会議が打ち出した「合格者は年間1,500人程度」という方針を重視しているものと考えられます。

もっとも、法曹養成制度改革推進会議は、「合格者は年間1,500人程度」という方針は「輩出される法曹の質の確保」を考慮せずに達成されるべきものではないとしています。そのため、来年度以降も受験者数が約12~17%程度減少した場合にまで、合格者数が約1,500人ベースを維持する形になるかどうかは未知数というほかありません。

## 2 合格点について

令和2年の合格点は、総合評価の総合点780点以上（令和元年は810点以上、平成30年は805点以上、平成29年は800点以上）となりました。平成29年から毎年5点ずつ上昇していましたが、今年は昨年から一気に30点も下がり、直近4年間で最も低い数字になりました。データ上では、直近3年間の問題を解いた各受験生と比較すると、今年の問題を解いた受験生が最も得点できなかったことを示す形となっており、相対的に、難易度も直近4年間で最も高かったものと推測できます。

## 3 合格者の構成

合格者の平均年齢は28.4歳（令和元年は28.9歳、平成30年は28.8歳）となりました。

法科大学院等別合格者数構成でみると、まず、予備試験合格者が423人受験して378人合格しました（合格率89.3% 昨年比↑7.5%）。 昨年の合格率81.8%

また、上位の法科大学院別の合格者数構成は、以下の通りです。

一橋大学法科大学院：受験者数119人、合格者数84人（合格率70.5% 昨年比↑10.7%）

東京大学法科大学院：受験者数212人、合格者数126人（合格率59.4% 昨年比↑3.1%）

京都大学法科大学院：受験者数185人、合格者数107人（合格率57.8% 昨年比↓4.8%）

慶應義塾大学法科大学院：受験者数251人、合格者数125人（合格率49.8% 昨年比↓0.8%）

早稲田大学法科大学院：受験者数208人、合格者数75人（合格率36.0% 昨年比↓6.0%）

中央大学法科大学院：受験者数289人、合格者数85人（合格率29.4% 昨年比↑1.1%）

このように、上位の法科大学院の合格率に比して、予備試験合格者の合格率の高さは圧倒的です。

予備試験合格の事実が大手法律事務所，外資系法律事務所等の就職活動において極めて大きな威力を發揮することも併せて考えると，大学在学中の皆さんに限らず，法科大学院在学中の皆さんも，予備試験合格を目指し，これを突破して司法試験に最終合格することができれば，将来の選択肢も大いに増えるのではないかと思います。

#### 4 総評

合格率は直近3年間で上昇し続けており，短答式試験の合格者数ベースでは3年連続で40%台以上に到達し，今年は遂に50%台に到達しました。来年度以降も受験者数に大きな変動がなければ，司法試験は，受験者数ベースでは約3人に1人が突破でき，短答式試験に合格できる実力を持っていれば，そのうち約4～5人に2人が突破できることになります。

このように，司法試験の合格率だけに着目すれば，司法試験はもはや「難関試験」ではないと錯覚してしまいそうですが，紛れもなく，司法試験（特に論文式試験）は「難関試験」です。気が遠くなるほどの学習を日々積み重ねてインプットの量・質を確保しつつ，アウトプットの訓練を何度も繰り返し，正しい採点やフィードバックを受けるというプロセスを経なければ，合格することは困難でしょう。たとえば，漫然とインプットだけを重ねる学習や，客観的な採点・評価を受けないアウトプットの訓練を繰り返すだけでは，合格することは難しいでしょう。

そこで，合格に直結する効率的な学習が必要不可欠です。予備校を上手に活用し，効果的な受験対策を行うことで，合格できる確率を大幅に上昇させることができるでしょう。そして，司法試験に最終合格し，是非とも法曹界に参入してください。皆さんの日々の努力が結ばれることを祈念しています。

以 上